

(参考)

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業評価参考様式

都道府県名 宮崎県

○ 産地パワーアップ計画

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																地域(県又は国)の 価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の 実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率 (%) ¹	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考		
					現状								目標								実績										
					年度	面積 (ha) 単位	生産量又は出荷量 単位	価格 (販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 (ha) 単位	生産量又は出荷量 単位	価格 (販売単価) 単位	生産コスト 単位	〇年度	面積 (ha) 単位	生産量又は出荷量 単位	価格 (販売単価) 単位	生産コスト 単位	事業実施前年度	目標年度										
日南市農業再生協議会	52	日南	マンゴー	高品質・高収量に向けたマンゴー産地体制への移行 ①販売力の強化への取り組み ②生産力の向上への取り組み ③人材の育成への取り組み	販売額の10%以上の増加	28	3,208千円/10a	11.47 ha	132,428 kg	2,779 円/kg	3	3,575千円/10a	11.35 ha	162,000 kg	2,505 円/kg	R3	5,423千円/10a	10.89 ha	181,057 kg	3,262 円/kg	3,281 円/kg	3,519 円/kg	0.932	5,054千円/10a	3年度の出荷実績により検証 ・現状値 (H28年度実績) 3,208千円/10a (総販売額:367,988千円/11,47ha) ※販売額、面積は、はまゆう農協生産者実績より ・目標 (R3年度目標値) 3,575千円/10a (総販売額:405,810千円/11,35ha) ※販売額ははまゆう農協中期計画より 面積は生産者アンケート結果より算出 ・目標/現状 3,575千円/3,208千円 11.4%の増加 ・R3年度実績 R3年度実績 5,423千円/10a (総販売額 590,580千円/10.89ha)	503.0%	機械や被覆資材の導入により、収穫量や品質が向上したほか、高単価の時期に出荷を行えたこともあり、目標を達成することができた。	本事業での被覆資材や自動閉機等導入により、栽培環境の改善が図られ、目標を達成することができた。今後も引き続き、収量・品質の向上について関係機関連携して取り組み、更なる産地の収益力向上を目指す。			
西都市農業再生協議会	53	西都東	きゅうり	施設きゅうり産地の収益力の高い生産構造へ移行 ①環境制御技術等の確立による安定生産の取組 ②病害虫対策の徹底による安定出荷体制の確立に向けた取組 ③生産者相互の技術や生産状況の情報交換の実施による栽培技術及び経営力の向上を図る取組	販売額の10%以上の増加	27	2,989千円/10a	9.75 ha	858.2 t	340 円/kg	3	3,356千円/10a	10.49 ha	964.5 t	365 円/kg	3	2,569千円/10a	8.76 ha	801 t	281 円/kg	349 円/kg	304 円/kg	1.148	2,949千円/10a	JA西都ハウス胡瓜部会中央、穂北、都都支部の販売額にて検証 【現状値】 ①:2,989千円/10a H27年度の販売額:291,392千円 H27年度の面積:9.75ha ※販売額及び面積はJA西都ハウス胡瓜部会中央・穂北、都都支部の生産者実績より 【目標値】 ②:3,356千円/10a R3年度の販売額:352,027千円 R3年度の面積10.49ha ※販売額はJA西都中期計画、面積は生産者アンケートより ②/①→(12.2%の増加) 12.3%の増加 【価格補正地域価格根拠】 JA宮崎経済連令和3年販売実績	-10.9%	収量は当初より増加しているが、令和2年度に引き続き、価格が低価格帯で推移しており、目標達成することが出来なかった。また、高齢化による離農などが要因で面積減となった。例年とおりの定植及び防除管理を徹底し、昨年以上の収量を目指すと共に、面積・生産量についても目標達成に向け引き続き指導する。	低単価で推移しているうえ、資材等のコスト高も影響し、出荷期間の短縮により全体出荷量が減少している。情勢の影響を受ける中でも生産を継続できるように支援を行う必要がある。			
日向地域農業再生協議会	55	日向市門川町美郷町	ミニトマト	販売額増加に向けた環境制御による産地体制の強化 ①販売力強化 ②生産力向上 ③人材の育成	総販売額の10%以上の増加	28	547,157千円	11 ha	1,055 t	519 円/kg	3	970,015千円	14 ha	1,540 t	630 円/kg	3	583,798千円	11.3 ha	1,143 t	511 円			8.7%		JA日向取扱実績でのH28実績との比較 ①【平成28年現状値】 総販売額 547,157千円 面積 11.0 ha ②【令和3年目標値】 総販売額 970,015千円 面積 14.0ha ※総販売額③/①→77.3%の増加	令和3年は、全体的に前作よりも収量は落ちたものの、高単価で推移したため、販売金額は維持することができた。収量減少の原因としては、重油金額の高騰の影響を受け、使用量を減らすために設定温度を下げ、生産者が相次いだことである。12月以降の出荷量が減少した。また、令和3年も各種病害の発生があり、それにより大きく収量を下げた生産者もいた。 令和4年は病害虫への対策を万全にするとともに、JAの管理指導員によるきめ細やかな指導(時期的管理や栽培技術等)を確実に実施することで栽培技術の向上(維持)を図り、収量と品質アップに努める。また、秀品率のアップによる差別化販売の割合を上げていくことで、販売金額の上乗せを実施する。	目標を達成できなかったため、生産量の増加及び品質向上等、JAを含めた関係機関で支援を継続して実施する。				

宮崎中央 地域農業 再生協議 会	58	宮崎市 国富町	いちご	①販売力強化に向けた取組 ②生産力の向上に向けた取組 ③人材の育成に向けた取組	総販売額の10%以上の増加	28	576,977 千円	16.99 ha	582 t	986 円/k g	3	635,500 千円	17.45 ha	631 t	1,007 円/k g	3	623,048 千円	13.74 ha	497 t	1,254 円/k g	-	1,104 円/k g	1,185 円/k g	0.93	579,435 千円	R3年度の個別申告書やJAの販売実績データを基に検証。 ・現状値 H28総販売額：576,977千円/16.99ha ※販売額、面積はJA宮崎中央実績より ・目標値 R3総販売額：635,500千円/17.45ha ※販売額はJA宮崎中央中期計画、面積は生産者意向調査により算出 ・目標/現状=635,500千円/576,977千円 →10.1%	4.2%	①産地の現状：宮崎県宮崎市・国富町地区、JA宮崎中央いちご部会員で構成。いちごの生産面積の拡大及び収量・品質の向上等による農業経営の安定を図り、産地としての維持・発展を目指した。 ②本事業の取組：安定生産による契約販売の拡充と単価販売、秀品率の向上等による販売単価の向上を図った。また、APハウスや高設栽培設備の導入により規模拡大を促すとともに、収穫期間の延長、ICTの実践、優良品種の選定・導入等により収量・品質の向上を図った。さらに、部会組織や青年部組織を通してリーダーや次世代リーダーを育成するとともに、新規就農者研修施設等との連携により担い手の確保を図った。 ③達成状況：冬場の温度が低く生育未熟となり、単価の高い時期に出荷できず、総販売額の減少に繋がった。 ④改善方策：厳寒期の温度設定、栽培管理を徹底し、また、新規就農者、後継者の確保による面積の拡大、高設栽培設備導入による、収穫期間の延長、ICTの実践、優良品種の選定・導入等により収量・品質の向上に取り組み、目標の達成に努める。	厳寒期の温度管理をはじめとする栽培管理を徹底し、単価高が狙える時期の出荷とともに、新規就農者等の担い手確保に努め、目標達成できるように、生産者の努力はもとより、関係機関の連携による指導を行うことが期待される。	
高鍋町農 業再生協 議会	61	高鍋町	茶	中心的経営体の茶の販売額増加による産地力の強化 ①生産力の向上 ②販売力の強化 ③人材の育成	販売額の10%以上の増加	28	392.0千円/10a	63.9 ha	317.415 kg	789.2 円/k g	3	452.8 千円/10a	63.5 ha	361.419 kg	795.7 円/k g	3	361千円/10a	60.91 ha	283538 kg	774.56 円/k g	-				H28年度およびHR3年度の個別販売実績により検証 【現状値】 ①392.0千円/10a H28年度総販売額 250,513千円 H28年度総面積 63.9ha H28年度10a当たり販売額 392.0千円/10a 【目標値】②452.8千円/10a R3年度総販売額 287,590千円 R3年度総面積 63.5ha R3年度10a当たり販売額 452.8千円/10a ②/①→15.5%の増加	-51.0%	新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、単価の低迷が続いている。増加して茶樹の更新や燃油高騰の影響による生産の抑制等でも前年度（令和2年度）より減少しており、達成率が大きく減少した。目標の達成に向け、令和2年から3年にかけてJAによる生葉の一括買取による買取価格の増加や施肥、刈取り時期の調整による茶品質の向上と均一化の試験を行い、マニュアル化して茶農家への周知を図った。今後もこの取り組みを継続し、茶産地全体の品質向上を図ることで目標達成を目指す。	新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、単価の低迷が続く、生産量の減少にも繋がっている。単価維持のために町やJAと連携し、栽培マニュアルの作成・周知に関する協議を行った。引き続き生産を継続できるように、マニュアルの見直し、周知や価格維持のための関係機関協議などの支援を行う必要がある。	目標年度については、大久保氏の事業取り下げがあったものの、令和3年度から変更しないこととする。	
西都市農 業再生協 議会	62	西都	施設ニラ	施設ニラ産地の収益力の高い生産構造へ移行 ①生産基盤を強化することによる安定生産の確立に向けた取組 ②販売担当者、生産者が緊密に連携し、契約販売の拡大等による安定出荷体制の確立に向けた取組 ③生産者相互の技術や生産状況の情報交換の実施による栽培技術及び経営力の向上を図る取組 ④出荷調整作業を集約することによる労働時間の削減、労働力不足の解消に向けた取組 ⑤集出荷場の機能・処理能力の向上を図ることによる集出荷場の作業短縮によるコスト（人件費）削減に向けた取組 ⑥予冷庫の機能向上による収穫から出荷まで品質・鮮度維持が強化できることによるブランド力向上とそれに伴う販売単価の安定・向上に向けた取組	総販売額の10%以上の増加	24～28年の平均	668,382 千円	28.82 ha	1,376 t	485.6 円/k g	3	761,742千円	29.77 ha	1,573 t	484.3 円/k g	3	総販売額 608,417 千円	26.3 ha	1137 t	535 円	-	505 円/k g	552 円/k g	0.915	556,565 千円	検証方法：JA西都ニラ部会の販売額にて検証 【現状値】 ①：668,382千円 H24年度からH28年度までの部会員販売額の平均値の合計額 H28年度面積：28.82ha ※販売額及び面積は、JA西都ニラ部会の生産者実績より 【目標値】 ②：761,742千円 R3年度の販売額：761,742千円 R3年度面積：29.77ha ※販売額、面積は部会員の意向確認調査の結果より ②/①→14.0%の増加 【価格補正地域価格根拠】 ・JA宮崎経済連R3年販売実績	-119.8%	R3年度は、天候も安定し、品質も比較的良かったが、部会員の高齢化による離農などが要因で作付け面積減少により収量が大幅に減少した。技術支援による新規就農者の定着等により産地拡大に努めたい。	作付け面積の減少による出荷量が減少していることから、労力補充などの部会全体での栽培面積拡大、意識の醸成を図っていく必要がある。	

都城市農 業再生協 議会	63	都城市	茶	茶の販売額増加に 向けた産地体制の 強化 ①生産力の向上 ②販売力の強化 ③人材の育成	販売額10%以上 の増加	28	320千円 /10a	40.9	ha	124,906	kg	1,048	円 /kg	3	353.2千円 /10a	41.1	ha	110,113kg	kg	1,318円 /kg	円 /kg	3	251千円/10a	33.6	ha	80,251	kg	1,051	円 /kg	円 /kg	円 /kg	円 /kg	円 /kg	J A 都城H28年販売 (令和2年) 実績と令和3年販売実績にて検証を行う。 【現状値】 ①320千円/10a H28年度JA都城販売額 130,907千円 【目標値】 ②353.2千円/10a 令和3年度JA都城販売額 145,166千円 ②/①→10.3%の増加 【実績値】 3/251千円 令和3年度JA都城販売額 84,358千円 ③/①→21%の減少	目標達成に向けて県茶業支場の協力の もと、製造研修を実施し、技術の 情報共有、火入れ技術の向上に繋が る取組み等を実施したが、茶価の低 迷が続く中、一番茶時期に気温が低 く新芽生育が抑制されたことに加え 、晩露、長雨の影響もあり、例年 に比べ収量・価格が減少し、目標の 達成が出来なかった。 今後は目標達成に向けて、2番、3 番茶の有利販売や、ブランド化に取 り組む。	本事業による機 械導入、施設整 備により、作業 改善や品質の向 上が図られた。 例年に比して取 量が低かったため目標 達成に届かなか った。今後、 関係機関と連携 した品質向上の ための研修やブ ランド化等への 支援を継続す る。		
小林市農 業再生協 議会	70	小林市	大麦若葉	更なる大麦若葉産 地強化への体制整 備 ①生産力向上に向 けた取組 ②販売力向上に向 けた取組 ③人材の育成に向 けた取組	10a当たり販売 額10%以上増加	28	109,535円 /10a	26.94	ha	37,434	t	788	円 /kg	3	129,718円 /10a	40	ha	60100	kg	863	円 /kg	円 /kg	3	67,793円 /10a	14	ha	21,140	kg	448	円 /kg	円 /kg	円 /kg	円 /kg	事後評価の検証方法 リーフ生産組合およびJAこばやしの実績により検証 現状値 ※リーフ生産組合およびJAこばやし平成28実績 ①反 取：109,535円/10a ②販売額：29,508,780円 ③面積：26.94ha 目標値(令和3年度計画) ※リーフ生産組合およびJAこばよしの作付計画 ①反取：129,718円/10a ②販売金額：51,887,000円 ③面積：40ha 目標値/現状値 反取18.4%の増加	①産地の現状、課題・問題点：本市では遊休 農地の増加が問題となっており、土地を有効 利用するため大麦若葉などの栽培を推進して いる。しかしながら、専用機種の導入が遅 れているため、収量・品質が伸び悩んでいる。 また、品質を理由に出荷が停止となる状況が 発生しており、大麦若葉の生産を断念する生 産者が出ている中、さらにコロナ禍の影響に より出荷が制限されるため、栽培面積が減少 している。 ②本事業の取組や産地独自の取組による効果 や成果目標の達成状況：遊休農地発生装置、 ボイラー、専用型大麦若葉収穫機の導入によ り生産・加工処理の効率化が図られたが、取 引先の出荷制限があり目標未達となった。 ③実績等が現状を上回る又は下回る場合の具 体的な要因：令和3年度において新型コロナウ イルスの影響により、出荷先製造工場の余 剰在庫による出荷制限及び取引先の新規開拓 を余儀なくされ、取引数量の大幅な減少が あったため、目標値の未達となった。令和4年 度では、新規取引先の開拓及び取引数量増加 に向けて収量増加を推進する。 ④達成状況が低調な場合における具体的な指 導内容等を記載：関係機関が連携して技術・ 経営の指導を行う。	加熱蒸気発生装 置、ボイラー及び 専用型大麦若葉取 収穫機の導入によ り、生産力の向上 を図ったが、新型 コロナウイルスの 影響により出荷先 が余剰在庫を抱え たため、出荷受け 入れ制限があつた。 このため出荷調 整を余儀なくされ 、出荷量が大幅 に減少した。今 後は新規取引 先の開拓及び取引 数量増加に向けて 関係機関と連携し て生産者に対する 技術、経営指導を 実施し、目標達成 を目指す。		
宮崎中央 地域農業 再生協議 会	77	国富町	施設野菜 (ピーマ ン)	①販売力強化に向 けた取組 ②生産力の向上に 向けた取組 ③人材の育成に向 けた取組	総販売額の10% 以上の増加	29	647,179 千円	13.58	ha	1,683	t	384	円 /kg	3	712,558 千円	13.58	ha	1,789	t	398	円 /kg	円 /kg	3	611,274 千円	10.63	ha	1,352	t	452	円 /kg	円 /kg	円 /kg	円 /kg	0.91	556,259 千円	R3年度の個別申告書やJ Aの販売実績データを基に検証。 【現状値】 (H29総販売額：647,179千円/13.58ha) ・目標値 R3総販売額：712,558千円/13.58ha ※販売額はJA宮崎中央中期計画、面積は生産者意向調査に より算出 ・目標/現状=712,558千円/647,179千円 →10.1%の増加	①産地の現状： 宮崎県国富町。ピーマンの共同出荷を行う J A宮崎中央ピーマン部会の国富支部で構 成。ピーマンの生産面積の拡大及び収量・ 品質の向上等により農業経営の安定を図 り、産地としての維持・発展を目指した。 ②本事業の取組： 安定的な生産体系により契約率の向上に取 組むとともに、適正な栽培管理の徹底及び 炭酸ガス発生装置や環境測定・制御装置の 導入推進により収量や品質の向上に取り組 んだ。 さらに、部会組織等を通じたリーダや次 世代リーダ、担い手の育成を図るなど、 産地の維持・発展に向け取組んだ。 ③達成状況：昨年同様、作物の病気や単 産安により、達成に至らなかった。今後も 小まめな防除を始めとする栽培管理指導を 継続し、目標達成に努める。	作物の病気や単 産安により、達 成に至らなかつ た。今後も小ま めな防除を始め とする栽培管理 指導を関係機関 と連携して行 い、目標達成に 努める。

都城市農業再生協議会	92	都城市関之尾地区	ニンジン	ニンジン生産に必要な農業機械の導入により作業の効率化を図り収量増に努めるとともに生産面積の拡大に取り組み、販売額10%以上の増加を図る。	10a当たり販売額の10%以上の増加	30	313.6千円/10a	29.5 ha	881 t	(加工) 105	円/k g	3	345.0千円/10a	32.5 ha	1,068 t	(加工) 105	円/k g	3	204.5千円/10a	33 ha	663 t	101.8	円/k g	—														H30年販売実績とR3年販売実績にて検証を行う。 【現状値】 ①: 313.6千円/10a H30年度販売額 92,505千円 H30年度面積 2,950a 【目標値】 ②: 345.0千円/10a R3年度販売額 112,125千円 R3年度面積 3,250a ②/①→10.0%の増加 【実績値】 ③: 205.0千円/10a R3年度販売額 67,500千円 R3年度面積 3,300a ③/①→34.7%の減少	-347.0%	当初の計画通り、作付面積を増やし収量アップを図ったが、8月の長雨による播種遅れと、8月下旬から9月上旬の高温少雨により人参の出来が悪く、出荷量が減少。今後は、人参の品種などを関係機関と協議しながら今後の成果目標の達成に向け協力を行う。	当事業による機械導入により計画に沿った面積増は行ったものの目標達成に届かなかった。今後は関係機関と連携して支援を継続したい。	契約取引のため価格補正なし
都城市農業再生協議会	93	都城市森田原地区	大根	大根生産に必要な農業機械の導入により作業の効率化を図り収量増と品質向上に努めるとともに生産面積の拡大に取り組み、販売額10%以上の増加を図る。	販売額の10%以上の増加	30	222千円/10a	10.0 ha	600 t	(加工) 37	円/k g	3	244.2千円/10a	11 ha	726 t	(加工) 37	円/k g	R3	163.1千円/10a	10.8 ha	394.1 t	大根(加工) 44.7	円/kg	—														H30年販売実績とR3年販売実績にて検証を行う。 【現状値】 ①: 222千円/10a H30年度大根販売額 22,200千円 H30年度大根面積 1,000a 【目標値】 ②: 244.2千円/10a R3年度大根販売額 26,862千円 R3年度大根面積 1,100a ②/①→10.0%の増加 【実績値】 ③: 163.1千円/10a R3年度販売額 17,612千円 R3年度面積 1,080a ③/①→26.5%の減少	-265.3%	コロナ禍の為、加工品が動かず畑での廃棄が増えてしまった。加工用品種の為生食には向かないので、千切大根農家への販売などを行った。コロナ禍が続いており、目標達成が難しかった。今後は他品種などの検討も含めて関係機関と協議しながら目標達成に向け協力を行う。	コロナ禍の影響で加工業務用野菜の需要が変化し、販売努力を行ったものの目標達成に届かなかった。今後は関係機関と連携した支援を継続したい。	
都城市農業再生協議会	96	都城市三股町	いちご	いちごにおける生産資材及び農業機械、生育促進技術等の導入による周年・計画生産の取組を推進することにより、販売額10%以上の増加を実現する。	10a当たり販売額の10%以上の増加	30	4,141千円/10a	4,536 ha	168 t	1,116.7	円/k g	3	4,560千円/10a	4,660 ha	190 t	1,116.7	円/k g	3	4,437千円/10a	4,101 ha	152.8 t	1190	円/kg	—	1,184	円/kg	1,185	円/kg	0.999	4430.1千円/10a								H30年販売実績とR3年販売実績にて検証を行う。 【現状値】 ①: 4,141千円/10a H30年度販売額 187,800千円 H30年度面積 453.6a 【目標値】 ②: 4,559千円/10a R3年度販売額 210,822千円 R3年度面積 462.4a ②/①→10.1%の増加 【実績値】 ③: 4,437千円/10a R3年度販売額 181,903千円 R3年度面積 4,101a ③/①→7.1%の増加 【価格補正地域価格根拠】 JA宮崎経済連 R3年販売実績	69.0%	育苗は大きな問題はなく、定植も9月25日中心でおおむね順調であった。出荷は1〜2番果の間が空き、2〜4番果が集中したため昨年より反収は昨年比と比較して下回ったが、単価については過去5年で最も高かった。目標達成には至らなかったが、今後も防虫防除を徹底し品質の向上及び面積拡大について取組成果が上がるよう関係機関と連携して支援する。	目標達成には至らなかったが、今後も防虫防除を徹底し品質の向上及び面積拡大について取組成果が上がるよう関係機関と連携して支援する。	

都城市農業再生協議会	97	都城市中郷地区	らっきょう	らっきょうの生産に必要な農業機械の導入により作業の効率化を図り収量増と品質向上に努めるとともにさらに生産面積の拡大に取り組み、販売額10%以上の増加を図る。	販売額の10%以上の増加	30	320千円/10a	12.0 ha	240.0 t	160.0 /kg	3	352千円/10a	14.0 ha	280.0 t	176.0 /kg	3	430千円/10a	12.97 ha	143 t	430 /kg	—	H30年販売実績とR3年販売実績にて検証を行う。 【現状値】 ①：320千円/10a H30年度販売額 38,400千円 H30年度面積 1,200a 【目標値】 ②：352千円/10a R3年度販売額 49,280千円 R3年度面積 1,400a ②/①→10.0%の増加 【実績値】 ③：430千円/10a R3年度らっきょう販売額 55,740千円 R3年度らっきょう面積 1297a ③/①→34.3%の増加	343.0%	新型コロナウイルスの影響で、外国人実習生が入国できず、作付け面積の大幅な減少が見込まれていたが、アルバイト等で何とか作付け出来た。しかし、収穫時期の長雨により病気が多発し大幅な収量減となった。ただ、規格選別などを行い販売単価を上げることが出来たため、目標達成できた。今後も導入した機械による生産性向上や、出荷販売の工夫などで、面積拡大及び販売額アップを目指してもらいたい。	出荷品質の向上により目標を達成できた。非常に収穫出荷労力を要する品目であり、引き続き産地の維持発展に努めてほしい。
都城市農業再生協議会	101	都城市志和池地区	大根 甘しょ ござう 人参	①販売力の向上に向けた取組 ②生産力の向上に向けた取組	総販売額の10%以上の増加	元	224,301千円	74.5 ha	3,301,350 kg	3,011 /kg	3	404,200千円	108 ha	4,810,000 kg	3,743 /kg	3,743 /kg	R3	292,506千円	91.7 ha	3,930,500 kg	3,190 /kg	R3の販売実績データを基に検証 【現状値】 ①対実績：224,301千円/74.5ha 【目標値】 ②R3計画：404,200千円/108.0ha ②/①→80%以上の増加 【実績値】 ③R3実績：292,506千円/91.7ha ③/①→30.4%の増加	37.9%	今年度は、コロナ禍の影響を受けた1年となっており、特に令和3年3月から開始した新規事業の加工品の動きが悪く、商談が進まない、契約に至らないという事態が続いた。青果物も同様に荷動きが悪く、注文量の減少、相場の下落が起き、全体的に売り上げが伸び悩んだ。その中で、前期と比較して、増収が達成できたことは評価に値し、来期に向け改善の兆しもあるため、加工品の販路開拓に力を入れ、成果目標の達成に向け、協力していく。	令和3年度はコロナ禍の影響を受け、業務用野菜の売り上げが伸び悩んだ。目標年に向け、関係機関と連携した支援を行う。

(6) 労働生産性の10%以上の向上

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)		補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考		
					現状				目標				実績				事業実施前年度	目標年度													
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位	年度	面積 単位			生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位										
えびの市農業再生協議会	91	えびの市長江浦地区	水稲	機械の導入により ①生産力の向上 ②販売力の強化 ③人材の育成 に取組み、生産の効率化等を図る	労働生産性の10.9%の向上	30	6,875円/h	13.46 ha	54,298 kg	242 /kg	1911.3 h	3	7,627円/h	13.46 ha	54,298 kg	242 /kg	1722.9 h	3	7,834円/h	21.31 ha	91,410 kg	246 /kg	2,875.0 h	15,718 円	12,918 円	1.217	9,535円/h	販売額・単価：有限会社ながえ村生産組合の販売実績により検証 労働時間：作業日誌により検証 ・現状値 (H30年度実績) 総販売額：13,140千円 労働時間：1,911.3h 労働生産性：6,875円/h ・目標値 (R3年度計画) 総販売額：13,140千円 労働時間：1,722.9h 労働生産性：7,627円/h ・目標値/現状値=7,627(円/h)/6,875(円/h)=10.9%の向上 ・実績値 (R3年度) 総販売額：22,524,150千円 労働時間：2875.0h 労働生産性：7,834円/h	353.8%	①産地の現状、課題・問題点： えびの市は県内有数の稲作地帯であり、生産農家も米作りに対する意欲が高い。方、霧島連山嶺奥山の噴火による河川水の白濁により、稲作を断念した農家も多数にのぼったがR3年産からは作付を再開した。 農業機械の高価格や生産者の高齢化等、個々の水稲農家を取り巻く環境が悪化しており、年々委託作業の需要が高まっており、ピーク時にも適期に作業ができる省力化が必要である。 ②本事業の取組や産地独自の取組による効果や成果目標の達成状況： 面積の拡大により総作業時間は長くなったものの、高性能機械の導入により、密苗の利便をすすめた結果、移植に係る時間が短くなった。その結果、労働生産性は目標を達成した。 ③実績等が現状を上回るまたは下回る場合の具体的な要因： 面積の増加に伴い、収穫量が増加した。また、密苗田圃機の導入により移植時間が減少した。 ④達成状況が低調な場合における具体的な指導内容：	水田営農の担い手が減少する中、産地の重要な担い手となっており、当初の目標以上に面積を拡大している。また、密苗田圃機等の高性能機械の導入により、面積あたりの苗苗必要数が減ったことから播種育苗にかか時間が減少し、目標達成につながった

都道府県平均達成率	26.5%	総合所見	<p>評価対象産地計画18件のうち、目標を達成した計画は3地区となっている。</p> <p>未達成の主な要因は、販売単価の低迷、生産面積の拡大や収量の確保ができなかったことが要因となっている。</p> <p>特に、新型コロナウイルス感染症の影響により、取引先の在庫の関係から出荷量が制限されるなど生産量の調整等を余儀なくされた産地もあった。また、施設園芸では燃油高騰の影響から、厳寒期の設定温度を変更するなどの対応により生産量が減収した産地もあった。</p> <p>外部要因の影響は大きいものの、今後の目標達成に向け、安定した品質と収量を確保するため、関係機関と連携した技術指導により、栽培管理や施設園芸での温度管理など徹底していくとともに、販売単価については、関係機関と連携し、現状把握・分析に努め、販売単価の向上を図るための品質向上等の技術指導及び販売対策の構築を図ることにより、改善に取り組んでいく。また、産地の維持・発展に向けた新規就農者、後継者の確保にも引き続き取り組んでいく。</p> <p>これらの支援を継続的に実施し、未達成となった15地区について成果目標の達成を目指す。</p>
-----------	-------	------	--